

# 研北の生壬 種菌開発強化へ工場増強

## キノコ菌床ラック増設

シイタケなどキノコ種菌・菌床製造の北研（壬生町駅東町、川嶋健市社長）は種菌開発強化のため、開発したシイタケ種菌の実用栽培試験を行う馬頭工場（那珂川町大山田下郷）の設備を増強する。またキクラゲとマイタケの種菌開発に本格的に取り組む。

（伊藤一之）

同社は馬頭工場で菌床を年間約25万個製造するとともに、品質向上を図るため試験栽培した生シイタケを同約180ト出荷し、流通を含め蓄積したノウハウを生産者に提供している。

また選別・パック詰め工程でシイタケの大きさや形

を認識し、一つのラインで数種類のラベルを自動的に貼り分ける独自の画像認識

システムを導入。効率化を図る。

さらに本社併設の食用菌類研究所を改造し、シイタケの需要が落ち込む夏場の転作用として高品質キクラゲの種菌開発に力を入れる。併せてマイタケの優良種菌の開発にも取り組む。

同社が製造した種菌でシイタケを栽培する生産者組

織「全国サンマッシュ生産協議会」の第30回大会が来年2月、宇都宮市内で5年ぶりに開かれ、約700人の来県が見込まれている。

同社は開発した種菌の試験栽培の状況を生産者に知ってもらうため、増強整備した馬頭工場を披露することになっている。



菌床からシイタケを摘み取る馬頭工場の作業員

■那珂川町大山田下郷